

越前町議会・令和7年12月定例会一般質問【寺坂 大地議員】

(令和7年12月3日 午後2時00分 開始)

○3番（寺坂大地君） それでは、通告に従いまして、本日は行政運営における意思決定と観光戦略について、一問一答形式で質問をさせていただきます。

本日、町長も今、マスクされていますけれども、私もちょっと喉にエヘン虫がおりまして、何人かマスクされている方もおられますが、先ほどの中野議員のような軽快なトークがちょっと難しいかもしれないんですけども、何卒ご容赦いただいております。少しゴホゴホと言うかもしれません。申し訳ございません。

まず初めに、最近、町民の方といろんな意見交換の場を設ける機会をつくっております。その際に、町民の方から、ちょっと行政は遅いといったようなご指摘を受けることがあります。私といたしましては、行政がこうした町政に関して慎重に臨むというのは決して悪いことではない、欠点ではなく、むしろ本質的な部分かなと考えております。これはぜひ、町民の皆様にも知っていただきたい、こういった文をちょっと入れさせていただいております。

町民の皆様にとって行政は、町民の暮らしと安全とを背負いながら、転ばず、転落せず、着実に歩みを進めることが求められる、登山隊のようなものです。登山をしているようなものです。山道では、急ぎ過ぎれば足を滑らせてしまいますし、無理をすれば隊全体が危険に及ばされてしまいます。時には、引き返す判断も必要かと思えます。行政のこういった慎重さというものは、安全性、公平性、そして継続性を守るための合理的な在り方なのかなと私は考えております。

また、町民サービス、災害対応、福祉、税務、教育、上下水道、どれも止めることができない業務であり、行政の皆様の日々のご尽力に、まずは心から敬意を表します。

しかし、一方で現代は、地形そのものが急激に目の前で変わっていくような、今まででは考えられないような時代、山が変化していくような時代に突入しているかと思えます。人口減少、産業構造の変化、デジタル化、まさにこういったものが、これまでにないスピードで、環境そのものが変化しているようなものが、今の日本、そして越前町かなと思えます。特に、環境や移住といった領域などは、半年単位で状況が変わる世界です。

また、先ほど中野議員のお話にもありましたし、また私も、9月の一般質問でも申し上げましたけれども、ふるさと納税といった施策といったものは、非常に変化が早い分野かなと思えます。今この状況下では、なかなか慎重さというものだけでは追いつけない部分が生じているのかなと考えております。

だからこそ、本日、施策、いわゆる登山ルートに当たるもの、これを一度立ち止まって見直すこと。そして、行政負担、まさに荷物そのものです。皆様、理事者の方、そして我々が背負っている荷物を今一度整理をしてみてもどうか。そして、登山隊の班同士、グループ同士が迷わないように、地図、戦略を共有していくこと。また必要なところは最短ルート、いかに早く意思決定をし、ルートを決めていくのか。その最短ルートを模索し、スピード感を持つ。この4つをテーマに質問をさせていただきたいと思えます。

それでは第1項、施策の評価と選択、集中について伺います。

まず、施策の定量評価について伺います。

また、せっかくですので登山を例にお話をいたします。登山では目的地とルートが明確でなければ、途中で迷ってしまいます。そして、そのことに気づくこともできません。どの山頂を目指すのか、どこに山小屋があるのか、どのルートで進むべきか。この辺り、K G I とか、K P I とか、ロードマップとか、いろんな言い方ありますけれども、こういったものが共有されて初めて、登山隊は安全に前に進むことが可能になるかと思います。

しかし、越前町の施策においては、この地図が十分に示されていない事業というものが散見されているんじゃないかなと、私のほうでは散見されるなというふうな印象を抱いております。

例えば、補正予算の議論の際、全員協議会室のほうで私のほうから、ふるさと納税ブラッシュアップの予算につきまして、K P I がない、そして撤退要件がないとご答弁をいただいております。もちろん、まずはトライをしてみる、これは全く間違っていないです。全く正しいことかと思えます。まずは試してみるということは非常に重要なんですけども、しかし、この地図、一体どこを目指して歩き始めるのかという地図がなければ、先ほど申し上げたとおり、迷っても気づきませんし、次の判断ができません。

この定量評価、もう一度申し上げますと、K G I、K P I、ロードマップ、ちょっと先ほども横文字が多過ぎて難しいと言われましたので、どの山頂を目指すのか、どのルートで進むのか、ただ、途中で休憩、山小屋があるのか、といったことですね。こういった基準、定量評価というものがなければ、そもそも成功か失敗かという判断も難しいですし、どこを改善していったほうがより効率がよくなるのか、次年度、どんな予算配分をしていったほうがいいのか、その最適解の基準。そして、もしかしたらやめるべき政策、施策があるかもしれない。この判断ができないということがございます。これは構造的な問題かと思えます。

この荷物の整理として、政策の棚卸しをまずはご提案させていただきます。町の政策を拝見いたしますと、利用が極端に少ない補助金ですとか、制度というものも存在するかなと思えます。実際、個別、具体的には申し上げませんが、町の職員の方とかとお話をする中で、これって本当に効果あるのかなとか、もっとこういうふうにしていったらいいんじゃないかな、この政策、この施策とはちょっと重複していませんか、ということが結構散見される印象です。

例えば、荷物の中にフライパンがなぜか2つ入っているとか、ランタンも2つ入っている、こんな状況があるというのが、今の町の状態かなというふうに考えています。また、そのランタンやフライパンというのが、今時の非常に優れたよい道具ではなく、昔ながらの非常に重たいフライパンや重たいランタンを使い続けている、こんな状況も散見されている状態です。もしかしたら、より現代的な軽いLEDのランタンに差し替えることができるかもしれない、これが現在の町の状態だと思います。

この荷物の重さそのものを全く否定するものではございません。今現在、町は非常に安定した情勢で運営されておられるかと思えますし、また、ただ、中身を見直し、重複を整理し、必要に応じて軽量化していく、荷物を見直すだけで、この登山隊の歩み、足の重さというものは非常にぐっと軽くなっていく、これはもう、容易に想像できることです。

町の施策も同じですね。必要な荷物はしっかりと背負いながら、そして荷物の重さを軽くするべく、荷物を整理し、荷物を見直す、これが非常に重要なのではないかなと私は考えております。そうすることで、まず行政に余力が生まれます。余裕

が生まれます。そして新しい挑戦に取り組むための余力、これが生み出すことができるかと思います。これは私も非常に理解をしているところですが、制度というものは、一度つくると、自然とどうしても残す方向に力が働きがちかと思います。だからこそ、定期的にこれを見直す仕組みがまずは必要かなと考えております。

特に、本町、財政の弾力性が非常に乏しいのかなと考えております。そういった懸念を抱いておりますので、その本町においては、この政策の固定化というものが非常に大きな問題なのかなと、私は捉えております。

もう一つ提案ですね。そこで、政策、施策の棚卸し、この政策レビュー制度というものを制度化できないかということをもとに提案させていただきたいと思います。

利用件数ですとか、予算執行率、目的との整合性、そして似たような政策、施策、類似施策との差別化、費用対効果といったものを、定期的に、3年ごと、5年ごとといった基準でも構いませんので、定期的にチェックをしていく。そして、続けるべき政策、改善すべき政策、統廃合すべき政策、そして廃止すべき政策、こういったものをまずは整理する、この仕組みをつくるべきだと提案いたします。

そこで、質問をさせていただきます。

まずは、一歩目です。この施策、仕組みをつくるための一歩目として、越前町として、現状、こういった施策の定量評価、このKPIですとか、KGI、ロードマップというものをどのように設定、運用されておられますとか、また、利用が少ない制度を見直す撤退基準ですとか、政策、棚卸しの方針について、お聞かせいただけたらと思います。

○議長（藤野菊信君） 総務理事。

○総務理事（山口隆司君） それでは、寺坂議員のご質問にお答えをいたします。

人口減少や地域活性化に関する政策を掲げている、越前町総合戦略におきまして、KPIを定めており、年度ごとに進捗管理を行っております。なお現在、次期計画の策定に当たり、事業計画等併せてKPIの見直しを行っているところでございます。

補助事業につきましては、予算編成方針において、実績、成果等による事業検証を行い、また、新規創設の場合は、おおむね3年をめどに見直しを図ることということで周知をしております。

一方で、行政サービスには、効率性の尺度だけでは計れない住民の生命や暮らしを守るセーフティネットとしての役割や、文化・伝統の継承といった、質的な価値も存在することから、慎重に評価をしなければならぬ事業も多く存在します。そのようなことから、全ての施策でKPIが明確に設定、運用されている状況にはありませんが、評価・検証の重要性については認識をしております。今後は、主に政策的な事案について、事業の内容や性質に応じ、統廃合や事業の見直しなど、適切な評価・検証を行う体制づくりに努めてまいります。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 寺坂大地君。

○3番（寺坂大地君） ありがとうございます。

答弁いただきました内容でよく分かりました。

3年をめどにということで、見直しが図られているということも含めて、また現場のほうとも相談させていただきたいことではありますが、こう言って、何か言いっぱなしではどうしても難しいとも思いますので、私のほうからもこういった形で整理してみたらどうかというようなレポートみたいなものも、また改めて提出させていただこうかなと思います。

今回、一般質問の中で、この定量評価、また、その業務の棚卸しというものを提案させていただいておりますが、この目的の趣旨といいますか、主目的というのは、一番の目的というのは、現場の業務をもっともっと整理して少なくしていくてはどうかという、本当にそこに尽きるということですね。

政策を一度区切り、評価し、もう一度組み直すきっかけをつくるということが、非常に重要なのかなというのを私のほうで考えているところで、改めてまた、現場とは話をしなければいけないのかなと思うんですけども、本来行政というものは、伴奏型の支援というものは非常に適切に運用すべきなのかなと思います。

町が何でもかんでも、こう何ていうんでしょう、責任を持って取り組むというのは、新しいことはどんどん積み上がっていくばかりで、今までの施策というのは、どんどん下にこう、横にと言うか、下にと言いますか、積み上がっていつてしまうような状態、これは非常に問題で、あくまで町民の生活の幸せのために伴奏していくという視点、これが非常に重要だと思いますので、まずはその整理をしていくべきだという意図で、質問をさせていただきました。

続きまして、観光戦略と、横断体制の構築についてというテーマで質問をさせていただきます。

再び登山の例に戻るんですけども、越前町には、越前がに、越前焼、海岸線、そして劔神社や古墳群といった、全国に誇れるそういったいろんなキーワード、登る価値のある山々というものが確かに存在します。非常に全国でも希な土地なのかなと私は感じております。しかし現在、それぞれの施策というものが、どうしても点で存在しておりまして、まだ一本の線、そして面としてつながっていないように感じております。

本来は冬、例えばですこれ、例え話と言いますか、ちょっとスピーチみたいになっちゃうんですが、冬、町外から子連れのご家族が、越前がにを目当てに来町されます。そのきっかけは、ふるさと納税やSNSによるプロモーション。食後、天候に左右されない全天候型の遊び場に立ち寄りまして、その場で陶芸体験に楽しみ、越前焼や歴史文化というものに触れていただく。そして職人や地域の方との対話が生まれ、町への好感が育っていく。これが、さらに線が続きまして、劔神社や古墳群を訪れ、自然歴史文化といったものにも触れていき、一体的な体験を得ることができる。そして、その旅の中で、この本町の誇る、子育て支援制度や教育環境のよさ、そして地元企業の情報などにも触れていただき、この町は子育てしやすそうだなとか、暮らすのもありかもしれないな、といった気持ちが芽生える。こういった来訪・体験・関係人口化、そして移住定住につなげていく、このストーリーの構築、これこそ越前町のつくり上げられる魅力、これを最大化する導線かなと私は考えています。

ちょっと語ってしまいましたが、現状はどうかというところですね。例えば遊び場と陶芸の拠点、こういったものは民生部門のほうで、今、担当しておられるかと思いますが、しかし、これは接続されているような企画書というものは拝見させていただいております。

一方で、では民間の事業者産業と、あるいは、浜のほう、越前海岸のほうの観光施策、こういったDMO、あるいは産業部門の担当をしておられる分野。あるいは定住促進課のほうと接続されているのか、ふるさと納税との接続が成されているのか、考えられているのか。そして丹生高校、地元にあります。また、中学校、小学校も全てございます。こういった生徒たち子どもたちの地域探求といったものにも接続されているのか。こういったところが非常に弱いんじゃないかなと私は仮説を

提唱いたします。

つまり、本来はあらゆる部門というものが横につながって、1つになってチームとして解決していくべき案件が、どうしてもこう縦割りになってしまっているんじゃないかということを提唱させていただきます。登山で言えば、戦略や地図が共有されず、おのおの好き勝手に山に登り始めているような状態なのかなと私は感じています。

この問題点を整理しますと、観光は単発のイベントでは全く成果が出ません。5年や10年といった長期での戦略が必要になってくる施策になります。このDMO、これは後ほどまた専門用語なので説明しますが、この戦略がなければ、観光連盟DMOは方向性がつかめません。また、地元商工会や商店街といったものも足並みをそろえて動くことができません。民間投資もなかなか集まらない、高校生や若者が地域に根差す、その協働テーマをつくることもできない。こういった問題点が発生します。

ちょっとここで、DMOというお話が出たので、少し説明をさせていただきますが、前後します、ごめんなさい。DMOというのは、本来データ分析やターゲット設定、観光ブランド構築、先ほど越前がにの話もありましたが、観光ブランド構築、販売戦略、町全体の調整、これを行うのがDMOの本来の役割。別にチラシを作ったりとか、イベントの告知をしたりとか、SNSを運用するだけの団体ではないということを申し上げておきます。このDMOが、方向性がつかめない、商工会商店街も動けない、民間投資が集まらない、高校生若者の協働テーマがつかれない、これは構造的な問題かと考えております。

そして、観光は本来、経済、教育、子育て、地域資源産業の複合領域です。しかし、現状では各部局が先ほど申し上げたとおりです、各部局が単独で動いていたり、先ほど申し上げましたDMOに情報が十分届いていない、本来横断すべき案件というものが、例えば全天候型の遊び場の構築なども、縦割りで非常に進んでしまっていないかという課題があるかと思います。この観光の中長期戦略というものを明確に示していただく必要があるかと考えております。これがまず提言1つ目です。

豪華な計画書は全く不要です。まずはこのようなビジョンでどうかというふうなたたき台で結構ですので、まずはどの山を目指していくべきかということを、まずは全庁で共有してみてもいいでしょうか。

そして提言2つ目です。

タスクフォースを設置してはどうかという提言をさせていただきます。

タスクフォースといいますと、必要な人だけを少人数で集め、分野をまたいで一気に話し合う臨時のチームです。この一つの課題を、どの部、どの課に割り当てるのかではなく、いろんな課から専門家を集めて一つの課題を解決するために集う、これがタスクフォースでございます。

この商工観光課や民政課、そして定住促進課、移住定住の担当者の方、教育委員会、DMO商工会、官民足並みをそろえて集まり、話し合う、すり合わせを行う、この場をつくってはどうかという提案をさせていただきます。

そこで質問を1つさせていただきたいと思います。

越前町として、観光の5年から10年、この中長期戦略をいつどのような形で提示していただけるのか。また、観光、子育て、移住、教育、産業これらを全て横断できるようなタスクフォースの必要性について、町長の見解を伺いたいと思います。また、DMOと連携しながら、どのように戦略的な観光体制をつくっていくのか、お聞かせいただければと思います。

○議長（藤野菊信君） 町長。

○町長（高田浩樹君） それでは、議員のご質問にお答えいたします。

まず、観光の中長期戦略についてです。

これにつきましては、現在策定を進めております総合振興計画において、まちづくりの重要施策として位置づけてまいります。観光はあらゆる分野に関連するため、全体の計画の中で整合性を図りながら進めていくことが重要だと考えております。一方、今後の環境変化や特定の目的に対して、より専門的な戦略が必要となる局面におきましては、新たな計画策定も視野に入れ、柔軟に対応してまいります。

次に、タスクフォースなどの組織体制についてです。

議員おっしゃるように、縦割りの弊害を排し、連携すべきというご提案の趣旨はとても重要なことであると考えます。この連携につきましては、特定の組織の形にこだわることはなく、必要な案件ごとに関係課が柔軟に連携をできる体系を推進してまいりたいと考えております。

最後にDMOとの連携についてです。

行政とDMO、互いの役割や特性を生かしていける協議の場などを通して、緊密に連携を図ってまいります。今後も従来より行政に求められている役割を守りながら、時代の変化にも柔軟に対応できるまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 寺坂大地君。

○3番（寺坂大地君） ご答弁ありがとうございます。

ちょっとこのゴホンゴホンのせいにはしたくないんですが、カミカミだったので、それはちょっと今日の反省点かなと思います。

今、ご答弁いただきました、先ほど私のほうからも申し上げたことなので、ダブルスタ、何ていうんでしょう、ダブルスタンダードになってはいけないということで、矛盾したことを言っではいけないということで、少し私のほうからも訂正と言いますか、補足と言いますか、させていただきたいと思います。

今ほど、私のほうからは、結構町に求めるようなことバンバンと申し上げましたけれども、やはりふるさと納税しかり、こういった観光しかり、受益者負担という原則が非常に大事かと思えます。町が全ての責任を負う、無限責任を負うというのは非常に問題で、やはり、民間側もいろんな責任というものを負わなければならない。これは私としても非常に感じますので、民間側はもちろん協力させていただきまして、しっかりと町と足並みをそろえるべく、取りまとめと言いますか、もちろんいろいろな形でご協力は当然させていただく予定です。その中で、先ほど申し上げました伴奏者として、町の行政の方もぜひ協力をしていただけるというのが、多分、理想的な形なのかなと私は考えております。

最後に、越前町にはすばらしい山々がございます。こういった山々を登るためには、登り尽くすためには、登山と同じで、焦って走る必要はもちろんございません。ただし、施策を一つ一つ確かめながら、ゆっくり着実に歩いていけば十分なのかなとは思います。その歩みを進めるためにも、先ほど申し上げたとおりです。私も一議員として皆様に、町民の皆様と共に、協力体制を築き、あらゆることに協力して、これはもう絶対にお約束することでございます。

本日の提案というのは、そういった動きを、歩を進めるための地図づくりとして、提案をさせていただいたものになります。行政への慎重さへの理解というものは、非常に私も進めているつもりですけれども、改めて政策の評価の仕組みづくり

ですとか、観光の戦略の設定、そして横断を強化していく、できればこのスピード感というものを持っていただく、これが私のお願いでございます。

以上で、質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

(午後 2 時 23 分 終了)